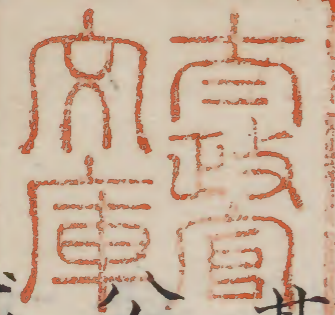


但馬考序

昔者先王統海內為郡縣其土地風俗各有圖籍分田制祿若指諸掌乎爰及中古私門日閑非唯去其籍史亦絕筆後之論

其查者將何所徵也吾

公受封於但既歷三世一遊一豫問民疾苦或觀迹於舊墟聞之乎故老而深慨文獻之



不足兵因使臣翰就載籍中質訪其事於是
博考史傳窮其本源旁求百家雜而集之
間有謬妄就加是正寬延庚午暮春受

命明年辛未季秋書成凡四篇分為十卷名
曰但馬考其叙曰維王體國既庶且富序其班
制以為上國經綸之道徵諸舊典作制度考
第一珠城御世日槍寔來當志賀時有若舩穗

始為國造後世稱守鑊倉霸成寺護專權山
名據國要君虐民至于應仁其慘極矣豐
公一征取彼凶殘奮深汗俗咸與惟新作年代
考第二任土作貢置郵傳命名山大川載在
祀典遭時不祥鞠入戰鬥何以按籍正其經界作
地理考第三天之降才區以別兵綜其行事
取之譜牒作人物考第四雖不能紹明世亦

可以為作志之資乎

寶曆元年冬十一月

出石城臣櫻良翰再拜稽首謹書

但馬考總目錄

卷之一	制度考
卷之二	年代考
卷之三	地理考第一
卷之四	地理考第二
卷之五	地理考第三
卷之六	地理考第四
卷之七	地理考第五
卷之八	地理考第六
卷之九	地理考第七
卷之十	人物考

但馬考凡例

一此編唯古書ニ載ルモノヲ集ム故ニ國中ノ傳記多シトイハレ
敢テ安リニ取用ヒス間古書ニ其名有テ其事ツグサナラサルハ
傳記ヲ雜ヘ引テ其始末ヲ正ス

一古書浩博ツグサニ考ヘカクシ且引用ノ中モ全書ヲ得サルモノ有
唯見聞ノ及ラズテヲ挙テヨニ記ス其餘ハ積ニ歲月ヲ以補ヒ入
トナリ

一俗説紛々是非ヲワカチガタシタ、古書ニヨリテ決断ス辨ヲ好
ムニアラス

但馬考引用書目

舊事本紀

同首書

故事記

同首書

日本書紀

續日本紀

日本逸史

續日本後紀

文德實錄

三代實錄

古語拾遺

令義解

類聚三代格

延喜式

類聚國史

新撰姓氏錄

皇胤紹運錄

釋日本紀

神皇正統記

舊事大成經

倭名類聚鈔
但馬太田文
國名風土記
御成敗式目
一宮記
諸神根元
神社啓蒙
水鏡
保元平治
源平盛衰記
增鏡

但馬風土記
但馬郡境記
臈原鈔
拾芥抄
本朝神社考
諸神記
諸社一覽
大鏡
平家物語
東鏡
鎌倉實記

兼久記
明德記
重編應仁記
續太平記
陰德太平記
太閤記
將軍家譜
本朝通記
和漢合運
諸家系圖
神系圖

太平記
應仁記
後太平記
太平記大全
信長記
北越軍譚
五代一覽
年代記
日本紀略
大系圖
武家系圖

武家評林

本朝人物史

本朝列女傳

新猿樂記

節用集

萬寶全書

古板武鑑

和爾雅

大和本草

一本堂藥選

軍器考

本朝稽古編

本朝事跡考

人國記

異稱日本傳

國華萬葉記

男重寶記

江戸往來

和漢事始

用藥須知

同續編

倭論語

湯嶋道記

古今銘盡

芭蕉謠

惺窩先生文集

但來詩集

破草鞋

古今和歌集

後撰集

千載集

新勅撰

新拾遺

但馬順禮記

新刃銘盡

熊坂謠

停雲集

元政艸山集

萬葉和歌集

古今榮雅抄

金葉集

新古今集

新後撰

玉葉集

新千載集

八雲御抄

史水集

兼好家集

幽齋家集

玉吟集

澤庵磬搜集

歌枕名寄

名所小鏡

花月六百韻

元亨釋書

八代集抄

六帖和歌

井蛙抄

歌林四季物語

紅葉集

懷中抄

名所方角抄

增補秋寐覺

宗祇諸國物語

弘法大師性靈集

寂室和尚錄

大明寺月菴錄

澤菴紀年錄

野峯名德傳

法華靈場記

周禮

史記

李白詩集

武備志

圖書編

大明一統志

本草新校正別集

沙石集

延寶傳燈錄

小原談義纂釋

書經

禮記

文撰

宋史

兩朝平壤錄

字彙

本草綱目

山東通志

海東諸國記

右通計百五十三部

但馬考卷之一

出石城臣櫻良翰輯

制度第一

國守

神武天皇都ヲ大倭國橿原ニ定メ天皇ノ位ニ即玉ヲ其時大倭國葛城
 國ノ造ヲ定メ其外功ナル者ニ國造ヲ賜フ定國ニ長アルノ始メナリサト
 其時諸國ニハ定リタル司ナシ十三代成務天皇四年春二月朔日丙寅詔
 名朕宝祚ヲ嗣踐テ夙夜ニ兢惕然ハキキラン氏ヲホニタカラムクメクメ黎元蠢爾コトクニメ野心ヲ
 悛ス是國郡ニ長ノ君ナク縣邑ニ首渠ナケレハナリ今ヨリ以後國
 長ヲ立テ縣邑ニ首ヲ置即當國ノ幹ヲホキニト了ヲ取テ其國郡ノ首長ニ
 任ヨ是ヲ中區ノ蕃屠トセト同五年秋九月諸國ニ令シテ國郡ニ

造長ヲテ^テ縣邑ニ^ニ緇置ラ^ラ置テ^テ並ニ^ニ楠ヲ^ヲ賜テ^テ以テ^テ表トス^ス此時^時船
總足^足居ラ^ラ但馬ノ^ノ國ノ^ノ造ニ^ニ定メ^メテ^テヨシ^シ舊事本紀ニ^ニ見ユ^ユ此^此六^六國中^中神
祇祭祀ノ^ノ事ヲ^ヲ司リ^リ兼テ^テ民事ヲ^ヲ治ム^ムナリ^リ後ニ^ニ國司ヲ^ヲ置レ^レテ^テヨリ
其子孫々^々神事ノ^ノミヲ^ヲ司リ^リ今モ^モ紀別ノ^ノ紀氏^氏出雲ノ^ノ千家^家北島
ナ^ナト^ト國造ト^ト稱シ^シテ^テ傳ハ^ハリ^リ職原抄曰^曰國造ハ^ハ乃チ^チ國司ノ^ノ名ナ^ナリ^リ後ニ^ニ
改テ^テ守ト^ト云^云也^也同首書曰^曰上世國司ヲ^ヲ國造ト^ト云^云皇極天皇ニ^ニ至テ^テ國司
ト^ト改ム^ム文武天皇國司ヲ^ヲ改テ^テ國守ト^ト云^云ト^ト是ハ^ハ古書ニ^ニ見ヘ^ヘサレ^レ世ニ^ニ
久シク^ク傳ヘ^ヘリ^リ文武天皇ノ^ノ時^時淡海公詔ヲ^ヲ奉シ^シテ^テ令ヲ^ヲ撰^撰ル^ル於^於爰^爰
制度大ニ^ニ備ハ^ハレ^レリ^リ先ヲ^ヲ諸國ノ^ノ格ヲ^ヲ四等ニ^ニ分テ^テ大上中下ト^トス^ス但馬ハ^ハ
上國也^也上國ニ^ニハ^ハ守一人^人介一人^人掾一人^人目一人^人史生三人^人アリ^リ位階モ
國ニ^ニ從テ^テ品アリ^リ上國ノ^ノ守ハ^ハ相當從五位下也^也是一國ノ^ノ政事ヲ^ヲスフル^ルニ

其職田ハ^ハ三町ニ^ニ及^及是今ノ^ノ役料也^也孝謙天皇天平宝字二年^年諸國司ニ^ニ勅
シテ^テ四年ヲ^ヲ以テ^テ任限ト^ト云^云五年ノ^ノニ^ニハ^ハ次ノ^ノ國司來テ^テ代ル^ル也^也或ハ^ハ一兩年モ
延ラル^ルト^トアリ^リ是ヲ^ヲ延任ト^ト云^云又重任ト^トテ^テヨキ^キ國司ハ^ハ重テ^テ四年任ス^ル
モアリ^リイッレモ^モ交替ノ^ノ節ハ^ハ驛馬ニ^ニル^ル路糧モ^モヨリ^リ賜フ^フニ^ニ國府ニ^ニ任テ^テハ
公廨ヲ^ヲ以テ^テ用ヲ^ヲ達ス^スツカヒ^ヒモノ^ノハ^ハ事カト^ト云^云フ^フ民ヨリ^リ夫役ヲ^ヲトル^ル上國
ノ^ノ守ニ^ニハ^ハ七人^人介ニ^ニハ^ハ六人^人掾ニ^ニハ^ハ五人^人目ニ^ニハ^ハ四人^人也^也

又權守アリ^リ參議ニ^ニ三位ノ^ノ中將少納言ナ^ナト^ト必是ヲ^ヲ兼^兼之^之故ニ^ニ正ノ^ノ守ヨ
リ^リハ^ハ位高シ^シ其身ハ^ハ京都ニ^ニアリ^リナ^ナラ^ラ其國ノ^ノ俸祿ヲ^ヲ受ル^ルユ^ユコレヲ
遙授^授ノ^ノ官ト^ト云^云

介ハ^ハ守ノ^ノ政務ヲ^ヲタス^スクル^ル也^也上國ノ^ノ介ハ^ハ相當從六位上^上職田ニ^ニ町コレモ^モ權ノ
介アリ^リスベテ^テ古ノ^ノ國守ハ^ハ祿薄キ^キニ^ニ家臣ノ^ノ事ニ^ニタ^タツ^ツサハ^ハル^ルト^トナ^ナレ^レ下

役ニテハリヲモ夕セタルニ中華ニテモ郡縣ノ代ハミナ如此權ノ介ハ辨
官近衛ノ中少將ナト是ヲ兼ス

禄ハ諸事ヲ糺シ非常ヲ警言ムルニ相當從七位上職田一町六反コレモ
權掾アリ

日ハ記録ナトシテ相當從八位下職田一町ニ反コレハ權官ナシ

右イツレモ職田ハ官符ヲ賜リテ其正統ヲ受ルノミテ今ノ御藏米

トナリ此時ヲ郡縣之代ト云中古ヨリ土地ニテ人ニ賜ハリコレヲ庄

園ト云テ家ノ傳領ニナリスレハ公領ト云モノハ國ノ中ニテ百分一ニテ

リス是ユヘ國司モ事スクナクテ其國ニユカス目代ヲツカヒテ政事

ヲ行ハシム目代ハ目代ト云テ也故ニ北畠殿正統記ニ暇代トカケル

目代ト云説アレト謬ニ國ニテハ國守ノ役ヲツトムルニ其權甚重シ

安元ノ比西光法師カ子近藤左衛門尉師高カ加賀守ニナリシニ其第
師經ヲ目代トメ下シ國ニテ粮籍セシテ平家物語ニ記セルニテシ
リヌヘシ文治年中ニ頼朝六十餘列ノ惣追捕使トナリ諸國ニ守護
ト云モノヲ置テ國政ヲ行ハセ玉ヒシヨリ國守ハアレトナキカ如ク
ニナリテ王威モツイニ衰サセ玉ヒ又増鏡ニ昔コツ受領トモ、任ノホ
ト其國ラシタメ行ヒシカ此比ハ准名計リニテイツタニモ守護ト云モ
ノ、目代ヨリモヲツマシキラスヘタレハ武家ノナヒキニテノミヲホヤケサメノ
事ハヨソツヲロソカニシケル下後鳥羽院ノ、玉ヒシモコレニ平家繁昌
ノ時知行ノ國ニ餘箇所ト云テ過分ノ一ニ語リ傳ヘヌレトソレハミナ
朝廷ヨリ任セラレテ國守トナルノ鎌倉以來ハ關東ノ御家人ナラテ
ハ政事ヲイロフヘキヤフナレ是日本開闢以來ノ大變ニ建武一統ノ

時又京都ヨリ陸奥伊勢ノ国司ナト置玉ヒシカト足利家ノムカ
レテヨリ又守護ノミナレリサレト其比ノ守護ト云ハ其国ノ仕置ス
スルハカリニテ所領ハ別ニ庄園何箇所トテ與ヘテレシナリ山名
氏清明徳ニ亂ヲ起セシヲ其臣小林カ諫メシ詞ニモ御一門ノ向ニ
十一ヶ国ノ守護職ヲ御拜領候ノミナラス諸国ノ御領氏幾千
萬ト申ス限ナシト云シカコトシ應仁コノカタハ諸国大亂ニナリ
シエハ王命タシラサルノミナラス將軍ノ下知ニモ從カハス已タカ守
護ノ国ヲ擅ニ領セシナリ大同ノ時ヨリ臣トシテ功アルモノハ其国ヲ
與ヘタル是ヨリ諸大名ノ勢ヒヨクナリテ周ノ代ノ諸候ト同シ以未四海
ニナアラタマリテ今ノ封建ノ御代トナレリ今ノ格ヲ以テ古ヲ見レハ
ベキヲハレキト多ク故ニ書ヲ讀ニ其時代ノ制度ヲ能考ヘキトシ

郡司

上古ハ国郡縣邑ト次第シテイヘルト日本紀ニ見ユコハ一國ヲ分テ幾郡
トシ又一郡ノ中ヲ分テ幾縣トシ又ニ縣ノ中ヲ分テ幾村トスル也
今ヲ考ルニ郡ニ大上中下小ノ五等アリマツ家数ニナル処ヲ一里トシ
レラ合セテ二十里以下十六里以上ヲ大郡トス千戸ヨリ八百戸ナリ
十二里以上ヲ上郡トス六百戸ナリ八里以上ヲ中郡トス四百戸ナリ
四里以上ヲ下郡トス二百戸ノ二里以上ヲ小郡トス百戸ノ此數ニ餘
リタルヲ餘戸ト云今モ美含郡ニアリ俗ニ餘部ト書ハ謬ニ一郡ヲ
ニ大領小領ヲ置テ其下ヲ治ノシムコトヲ郡司ト云又主政主帳ノ
役人アリコノ四ツハ国司ノ守介掾目ノコトシ唯國司ハ京都ヨリ置
郡司ハ其地ノ人ヲ用ヒテスル

郡ノ下ニ縣トイハルハ神武ノ時ヨリアリテ縣主ヲ定メモシテ日本紀ニ
ニエサレト其比ハ制度ニハテサルニ多ハ郡ノ如クナリシトニエ今モ
河内ノ大縣信別ノ小縣美濃ノ山縣方縣對馬ノ上縣下縣ノ類
郡トナリ後ニ郡ノ下ハ郷ト云モノニ定メラレテヨリ縣ノ各カケス
郷ノ名源順倭名類聚鈔ニ載ラレタリ但馬八郡ノ下ニ五十九郷有
此テ村里ヲ分テリ故ニ古ノ土地ノ次第ハ何郡ノ何
庄ノ名ハ用ヒス

庄ノ土地ニ定リテアルモノニアラス是ハ庄園トテ古ノ私領ノ地ナリ上古
ニ官人ノ封戸位田職田ナト云モ唯名ガカリニテ實ハ御藏米ニテ
賜ヒシニ中古トナリテ土地ニテ賜フコトヨリ國中數々ニワカレテ郷
ノ境ニカ、ワラス已々カ領スル分ニ名ヲ付テ何ノ庄彼庄トテ

家々ニ持傳フルトニナレリ中ニ六郷ノ名ヲ其供用ニタルアリ盛衰
記ノ城崎庄東鑑テ山口庄ノ類也久東鑑ノ多々羅木庄ハ村ノ名
ヲ用ヒタリ又一郷ヲニツニモニツニモ分テ庄トセルアリコレヲヘテモ
俗ニ合ケ郷ト云養父郡ノ一分ト云ハ小佐郷ヲ分タルニ七美郡ノ
二分庄ハ七美郷ヲ分タルニ氣多郡ノ上ノ郷中、郷ト云ハ日置郷ヲ
分タルナリ太田文ニハ下ノ郷有テ中ノ郷ナシ其分殘シテ本郷ト云
是ハ人ニ賜ハラヌ地ニ其外寺社領ハ直ニ寺社ノ名ヲ呼フナリ
其境ニアル村ヲ庄境村ト云イワクニモ多キモノノ庄ノ持主ヲ
ハ領家ト云ソレヲ治ムル役人ヲハ庄司氏庄官氏云代替リ六本領
安堵ノ御教書ヲ賜フサレト一國ニテ庄園ニツ氏給フフコレナリ
何十箇所アリテモ此ノニテトリアツムルノ加賀ニ梅田越中ニ

櫻井上野ニ松枝合テニ箇ノ庄ト謠フハ童モ能覺ハタルトシ
古ノ郷ニ別ニ役人ナシ郡司テスヘ治メシニ庄園ト云モノイテキテヨリ
庄司ニテ事ヲ執行フエヘ郡司ハ廢リヌト見ユモヨリ国事サマニ
ニ分レユキヌ後ニ條院ノ御世コソ此ツイエヲ聞セ玉ニテ記録所ヲ
置テテ庄公ノ大書ヲ召テヲホク停廢セテシカト白河鳥羽ノ
御時ヨリ新立ノ地イヨ々多クナリテ国司ノシル所百カニナリ
ヌルヨシ正統記ニ委ク沙汰シ置レニキ

文治年中ニ庄園ニ地頭ヲ置ルユレハ国ニ守護ヲ置カコトク武家ヨリ庄
コトニ役人ヲツケテ庄司ノマニサセヌレニヨリテ政事モ入定テ
六ケニキコトモ多カリシニ貞應ニ武藏前司入道日本国ノ太田
文ヲ作テ庄郷ヲ分テ貞永ニ五十一箇條ノ式目ヲ定メテ裁許ニ

衛
兵
衛
謀

不滯ト太平記ニアリ今但馬ニ傳フル太田文ハ弘安年中太田左
衛門尉鎌倉ノ命ニ因テ注進セシ記録ナリ其比マテモ大内ノ御
領ハ古来ノコトク郷ト云レト見ユ足利義詮ノ南朝ヘ降參シ文
言ニモ国術ノ郷保并ニ本家領家年来進止地ニ於テハ武家向
其綺ヲヤムヘキニテ候トカレニキ此比國術トテ公家ノ国司アリ
其下ノ役人ヲ公文ト云武家ノ守護ヨリ置ク代官ヲ下司ト云
應仁大乱ノ後ハ古代ノスカタミナカワリハテ東国ノ俸禄ハ貫ニ
テ積リシカトコノ国ハナラ庄ニテ分テリ當代ハ石ニテ給フナレハ庄
園ト云フハ用ナキモノナリ然ルラ中古ヨリノナラハニテ今ニ其
名ヲ云傳ヘ郷ノコトク郡ノ下ニ定リテアル土地ナリトラモフハ
繆々一郡ノ中ニ庄ナラヌ所ハアレト郷ナラス地ハナシ

郷ノ下ニ邑アリ又村ト云里ト云名ハ此ニヨリテカハレ氏其實ハ同
フ之上古ハ此ヨリ村主ト云續日本紀ニハ村長トアリ令ニ里長
トス中華ニテ里正村正ナト云

又保ト云モノアリ是ハ唐令ニ五家ヲ保トスト云ニヨリテ和令ニモ載
ラル類聚ニ代格ニイヘル結保ニテ今五人組ニ其カシラヲ保長ト
云後ハ京都ニテモ置テ其家ノ雜掌ヤフノモヲ保長トセシテ三代
實禄ニアリ中比ヨリハ是モ村トヒトシクナリシニヤ御成敗式目ハ郡
郷庄保ト云正統記ニ庄園郷保トツケリ養父郡ニテ小田坂本
ノ二村ヲ大江保内ト云テ故老ノ語り傳ヘシ弘安ノ太田文ヲミレハ大
惠保ト大惠本郷トヲシルセリ作別ニ保頭ト云モノアリユノ国ノ
肝煎ナリト或人ノイヒシモ古ノ詞ノ遺レルナラン

又名ト云モノアリ盛衰記ニ頼朝ヨリ烏帽子商人ニ名田百町給リ名類
太平記大全ニ田町ヲ云トアレモ限ルハカラス伊勢ノ衆名肥後ノ
玉名遠江ニハ山名濱名阿波ニハ名ノ東名ノ西トテコレヲハ地名也
上古取テ郡ノ名トセリ東鑑ニ武藏国豊嶋ノ庄大食名トイヘルハ
村ナリ弘安ノ太田文ヲミレハ出石郡安美郷ノ内成支名安富名
福成名ナトアリ安美ハ今ノ穴見谷ナト其名ノ地ハレレス中比ハ一
村ニ兩名アルトアラタニ畢竟今ノ村ニアル小名ナリ庄司ニテ治
メシ比ハ其下ハ名主ニテツカサトリ上総国新田庄ノ内米澤村名
主職ノトナト東鑑ニモシルセリ名主ヲ今ハ名主ト唱フ又コレヲ庄
屋ト云ハ中古一庄キリニ地頭アリテアラ執行セシエハ名主庄官ナ
トツケテ云レヨリ傳リタル詞ナリ此類コトニクアケカタク

國名

此國ノ名古書ニ載ルル其文字同シカラス舊事紀ニ但遲麻トシ故事
記ニ多遲摩トシ日本紀田道間トシ舊事大成經ニ谿間トスタ、
但馬ト云ニソ古未定リル本名ニシテ其他ハ詞ノ通スル文字ヲ用ヒ
タルナリ

明ノ第元儀カ武備志ノ譯語ニハ達什磨トカケリコレハ此方ノ詞ヲ
華音ニ寫シテ萬葉假名ニシタルナリ

但馬風土記曰山路多クシテ通行馬ニアリ故ニ達馬ト名ツク今但馬ト
イフハ其訛ナリ

國名凡土記曰但馬國ト昔應神天皇ノ御代ニ高麗國ヨリ初テ馬ヲ
獻ス然レ是ヲ飼ヘキ様ヲシラス山ニ放チタルニ依テ彼山ヲ生駒山

ト号ス又其後高麗ヨリ人渡テ申ス岩石峯海ノ邊塩風堂處ニ
放チ置キ飼ヘハ駿馬ト成テヨシト申ス依テサアリ又ヘキ処ヲ尋ルニ
此國ノ海峯ニカル處ヲ求得テ馬ヲ追放ツ其後子氏多ク生ケル馬
ノ此國ニ充満シケリ故ニ多馬ノ國ト號ス又ツレヲ立馬ト云フハ允
恭天皇ノ子木曾ハ季子ハ皇輕ノ主子餘リニ物惡シクケルハ討
チ奉ラントテ宣告ヲ下サル依テ大盛皇子是ヲ襲フ輕ノ王子逃テ
多馬國ニ到リ給ニ御馬痛テ不行故ニ立馬國ト云フ彼馬ヲ捨給テ
アユミ行ヲチサセ玉フトテ皇子ノ御言バニ多クノ處マテ落行ヘ
キナリ但シ馬ナクン歩行ナリ氏敵ノナキ処ヘタニモ行ナハト仰ナリ
シニ依テソレヲ因幡ノ國ト號スル也

日本紀ニ考レハ己木梨輕皇子ナリ然レ此國ヘ未玉アトミ

ヘスコレ書ニ但シ馬ナクメトイヘルニヨリ但馬ト名ツケレヨシヲ
イフナラン

風土

ムカレ伊弉諾伊弉册ノ大八洲ヲウミ給シト云ハ日本ノ地ヲハツニ分テ
海島ノヘタテヲ以テカヅヘタルニ其時但馬ハ豊秋津洲ニ属ス今ノ中
国ト云コレナリ詳ナルハ舊事紀ニアリ成務天皇ノ御宇始テ国境
ヲ分ツ日本紀ニ曰東西ヲ曰縦トシ南北ヲ曰横トシ山陽ヲ影面ト云
山陰ヲ皆面ト云トコニ於テ但馬ノ地山陰道ニ隸ス
延喜式曰山陰道但馬国上管朝耒養父出石氣多城崎美含ニ分

七美 右為近国

先王時諸国ヲ分テ大上中下ノ四等トス但馬ハ上国ノ格ニ當ルニトイ

ヘリ然ルヲ林逸カ節用集ニ中上国ニト記セシハ土地ノ好悪ニ就テ定
メタルニヤ古ニキコフニ武備志ニハ但馬大トアリ異国ノ人ノ記セルニハ
格ヲアヤルナルヘシ管トハツサトリヲサムル義ニテ此国ノ管領スル
郡ソレト云下ノ故ニ明ノ章潢カ圖書編ニハ但馬州八郡ヲ領
ストカケリ然レハ諸書ニ上管八郡トアルハ但馬上トキリテ管八
郡トヨムヘキナリ世俗ニ此文ヲ見テ何ノ意得モナク但馬ハ上管ノ
国ト云モノト思ヘリ故ニコニ詳ニスムカレ本朝一條院ノ時宗ノ
太宗雍熙元年ニ嵯峨清凉寺ノ開祖奄然入宗シテ本朝ノ職負令
并年代記等ヲ献ス時ニ彼国ノ人日本ノ凡士ヲ問レニ奄然華言通
セス筆談ニテ答フ夫レヲ宋史ニ載テ山陰道凡八列共ニ五十二郡ヲ統
トアリコレヨリ兩朝平壤録等ニモ引用ヘリ異国ノ人ニユレク思ハ

セントテカクイヘルニヤ 近国ハ京都ニ近キユヘ定メタルニ年貢ノ
運漕流罪ノ輕重モコノ格ヲ用ユ

圖書編并武備志曰山城之西ヲ丹波トシ庄ヲ撰津トシ左ノ西ヲ播磨ト
シ右ヲ但馬トス 且ハ北面シテ定メタルニヤ

宗祇ノ名所方角抄曰但馬国分丹後ノ坤ニアタレリ丹波ノ西ニサシタ
ル名所ナシ

宗祇ノ記名所ハ朝来山ニ見浦雪白濱立師里同宮以上ホウナリ
其餘ハイカテモラシスルヤ結浦諸寄川入佐山同原ナト歌枕名寄ニ
載ス氣多川ハ八雲抄ニ入レモア近年秋ノ寢覚ニ琴引山ニ尾
浦ニテ出セリコレミナ古書ニ本歌アリ詳ナルハ地理考ニ著ス

最明寺殿人国記曰當国ノ風俗ハ丹列ヨリハサシヨシ出石氣多城崎ニ方ノ

數郡ハ實アリテタノモシキ意地アリ 朝来養父ノ風ハ意地キタナク盜
人多シ兩丹風ノ中分ニシテ善モ惡モ從ナリ同書ノ註ニ曰按ニ當国ハ
土地ノ大底丹後ニトシ但シ丹後ヨリモ野鄙ナリ四時ノ寒暑モ丹
波ニ同シ国府ハ湍凡ナリ

土地ノ風ハ土地ニアラス人ノ風ニヨリテシラルナリ上古ハ国府氣
多郡ニアリ衣冠之徒来リテコレヲ治ム其文物ハ盛ナルヲ思ヒヤ
リスヘシ鎌倉ヨリコノカタハ守護地頭ト称スルモ武冕ノ人ニアラ
サルハナシ且其守護ナルモノ俸録甚輕シ太田氏ノ類ワツカ出
石山中ニアリ別ニ風声ヲ樹ルニタラス百年以來出石豊岡
大藻魏然トシテ文獻之域トナルコレ最明寺殿ノシラサル下
ナリ大抵人多キ處ハ風俗都カニシテ情ハ輕薄ナリ人少キ地ハ

風俗鄙クシテ情スナホナリ唯言ヒノシゾニツカニウツシガタシトモ
ニ柴折ラ但馬ニテハホナグセト云ワケモナイトイフヲツガセナヒト
云ナト男重宝記ニカキラケリ

節用集曰田厚宏粟稗繁多ニシテ柴木統饒也

行程

延喜式并源順倭名鈔曰行程上七日下四日 是ハ氣多ノ国府

ヨリ京都へ年貢等ヲ運フニ右ノ通りニ定メテ上ヨリ路糧ヲ給
ナリ今ノ路程ニテ三十餘里ナレハ四日ナレ上リハ荷物アルニ六七
トスルナリ

節用集曰東西二日

コレハ此国ノ横ヲツモリシニナリ何カ定メシ路程合カテスヘテ

此国ノ土界ヲ計ルニ東ハ丹波境出石郡登尾嶺ヨリ西ハ因幡境
ニ方郡加茂嶺ニテ貳拾一里十五町南ハ播磨境生野嶺ヨリ北
大海ニ至リ美含郡丹生浦ニテ拾七里二十一町コレ今ノ三十六町
道ナリタトヒ荷物ナクハ東西三日路ナリ今曰凡行程馬八日ニ
七十里歩ハ五十里車ハ三十里ト按ニ古ハ五尺ヲ一步トシ三百歩ヲ
一里トス然レ古土地ヲナルニハ一尺ニ寸ノ長尺ヲ用コレハ五尺ハ今ノ六
尺ナリ然レハ一里ハ今ノ五町ニ當ル三十六町ヲ一里トセシテ何レノ
時ニ始リシ詳ニシリ難シタ、拾芥抄ニ田地ヲ積ルニ三十六町ヲ一
里ト云フアリカヤウノ事ヨリ轉用セルニヤ無住カ沙石集ニ
高野ノ大塔ヨリ改所へ五里百八十町トカケルアリ永仁年中ノ
作ナリ然レハ鎌倉ノ時ステニ三十六町ヲ一里トセシテアリキト云

五十町一里ハ猶近キナラン

壑田

倭名鈔曰田七千五百五十五町八段五步

拾芥抄曰七千七百四十三町

節用集曰八千十六町

朝鮮ノ申叔舟カ海東諸国記曰水田七千二百四十町

右諸書ニ載ル田數同シカラスイツレカ是ナルヲ知ラス古ハ五尺ヲ一步トシ三百六十歩ヲ一段トス今ハ六尺五寸ヲ一步トシ三百歩ヲ一段トシ又其内ニテ三十歩ヲ一畝トス己ハ近キ世ニ始リニヤ弘安ノ大田文ニモ三百六十歩ニ滿サル内ハ何百幾歩ト分リ計ヘリ畝ト云フハ其比ニテモナカリシナリ今ヲ考ルニ古ハ

三百六十歩一段ノ地ヨリ稻五十束カル今モ民間テ一段ヲ五十代ト云フユヘナリ一町三千六百歩ノ地ハ稻五百束刈ル米ニシテ八束ニテ五升トナル五束ニテ八二十五石ナリ此積リニテハ但馬ノ田地凡八千町トスル時ハ米二十万石トナル古ハ人民ノ少キ時ニ方ク土地ノ廣キヲイカナルユヘカアリケン

節用集曰知行高拾貳萬三千九百六拾石

今ノ見數

朝来郡 二万三百八十八石五斗二升一合

養父郡 二万六百七十五石二斗七升五合

出石郡 二万四千七百三十五石九斗七升五合

城崎郡 一万九千八百九十九石三斗八升九合

气多郡 一万七千五百四十九石一斗七升七合

养会郡 一万九千九百四十四石六斗八升五合

二方郡 七千九百二十六石七斗三升五合

七养郡 六千七百石

通計拾貳萬八千九百六拾九石七斗五升七合

五萬二千四百九拾九石貳斗九升六合 御領

四万八千石 出石領

壹万五千石 豊岡領

六千七百石 山名主殿 七养郡村岡

千五百石 小出公郎 養父郡土田

二千石 小出織部 出石郡倉見

千石 小出助四郎 气多郡山本

千五百石 小出内記 養父郡大藪

二千石 京極兵部 養父郡糸井

千百石 杉原家 命合テ三家トシ 气多郡荒川

三拾三石壹斗 粟鹿社領

三拾石 妙見社領

拾五石 大明寺領

貢職

古八民ニ租庸調ハ三ツアリ 租ハ年貢ナリ古ノ年貢ハ皆十束

ニテ積ルナリ一段ノ田ヨリ稻五十束川ル其内ニ束ニ地年貢ニ上ル

米ニシテハ五十束ハ二石五斗ナリ其内一斗一升ノ年貢ナリ然ハ

二六五分強ナリ文武天皇ノ慶雲三年又コレヲ減シテ一町ニテ十
カ束ツク年貢ニトラル米ニシテ七升五合ナリ然レハ三十分一ヨリ
輕シ太平記大全ニ世鏡抄ヲ引テ二十分一ノ年貢トスコレハ其
後ノコトナルヘシ鎌倉ノ時ニ庄ノ地頭ヲ置テ年貢ノ外ニ段別ニ
兵糧ヲトラル室町ノ時ニ段錢ト云テカケル戰國ノ末ニナリテ貫
ト云フアリ凡一貫ノ地ハ三反ニテ九百歩ニコノ地ヨリ米十五俵出
其内六俵年貢トスコレ拾分四ノ積リナルハ今ノ四ツモナリ百年以
來モコレ定メラルレ氏十四ノ税ハ同レナリ

庸ハ夫役ナリ百姓歳二十ヨリ帳ニ附テ六十ニテラ正丁ナル其内四
十年ハ定リテ一年二十日ツルカラ是ヲツトメサレハ其カハリニ布ヲ
出ス一日ニ二尺六寸ツク今ハ夫米夫錢トテ賃ニテ出ス

調ハ家役ナリコレハ其所ノ産物ニ因テ糸綿絹布ナトラ出ス今ノ小物
成ナリ鎌倉以來ハ政事タシカテサルニ考ヘカクシ上古但馬ヨリ
輸セシ品々ヲコレニ記ス

延喜式主税上日但馬国正統公廩各世四萬束国分寺料二万束文
珠會料二千束修理池溝料二萬束救急料一萬八千束

正統ハ京都ヘトス年貢ナリ公廩ハ国府ニ苗メ置国司氏ノ用
度ニスルナリ修理池溝料ハ田地普請ナリ救急料ハ民ノ救
米ナリ以上ミナ年貢ノ内ニテ分ツナリ

倭名類聚抄日本録七十二万束雜録六万束

本録ハ正統公廩也雜録ハ国分寺料ヨリ救急料ノ類ナリ然レ
今ノコトクニ十五分一ノ年貢トスレハ延喜式ノ束數ハ甚多シ

一にて倭名鈔載ル田数七千五百五十五町八段五歩ナリコノ
稻三百七十七萬七千五百餘束アリコノ内ニテ本隸雜隸七十
八万束トシテハ五分一ノ年貢ニモコトナリイカナルイワレアルカイニ
詳ニ考ヘカク

延喜式民部下曰 年料春米但馬国大炊ニ五百石正税ヲ以テ
春運テ百米ハ大炊寮ニ送り黒米ハ省及ヒ内藏寮ニ送ル
其運送スル徭夫ハ竝ニ路糧ヲ給フ

又曰凡諸国ノ春米京ニ運ツ者ハ但馬因幡美作備前讃岐六月
晦日以前

又曰年料別納祖穀 但馬二千九石

又曰凡但馬紀伊阿波等国ハ位田ヲ置クコトヲエス位田ハ官人

位階ニ因テ賜フ田ナリコノ外職田ト云ハ役料ナリ功田ト云ハ勸賞
ノ北ナリコレヲハ但馬ニモ置ルナリ

同主税式田凡檢損并ニ不堪佃田賑給疾死等ノ使レノ程限但馬
等ノ国ハ損田ニ百日不堪佃田ニ八十日賑救疾死ハ並ニ不堪佃田ニ
准ス

コノ京ヨリ毎年出ル使ナリ檢損ハ損毛アラタメナリ不堪佃
田ハ荒地ナリ賑救疾死ハ民ノ病氣又死メ迹ノ難儀スルヲ救フ也
主計式曰但馬ノ国ノ調九點ノ羅ニ疋一窠ノ綾十三疋二窠ノ綾
九疋三窠ノ綾三疋蕃薇綾四疋白絹十疋緋帛三疋縹帛
十五疋皂帛五疋帛三百三十疋自餘ハ緋ヲ輸ス

調ハ上ニ云家役ナリ其所ノ産物ヨリテ出ス元明天皇ノ時

始テ但馬国綾錦ヲ織シルヨレ續日本紀ニ見ユ中古以來其
傳ヲ失ヒ今ハ夕、出石竹田ノ絹ノミセシルヲニナレリ養父
郡ニテ縹紗ヲ織出モエノコロノナリ室町家ノ時棟別ト云ハ
調ノコトナレソレハ夕、米錢ニテトテレトミヘタリ調ハミツキト
訓ス貢物ヲミツキモノト云モコノコトナリ

又曰庸韓櫃ヨナカラヒツ十合漆ヲ塗リ鑲ヲ著自餘ハ絹ヲ輸ス庸ル夫役ヲツト
ル下定法ナリモシコレヲツトメサレハ其カハリニ布ニ丈六尺ヲ
イタス己年中十日ハ賃ナリ然レ土地ニヨリテ布ノヨロシカラ
サル所ハ外ノ物ヲイタス令義解曰其庸ヲ收者郷土ノ出ス
所ニ随フヘシ布ヲ以テ一例トスヘカラスト

又曰中男ノ作物

古ハ民ノ年セ一ヨリ六十一テヲ正丁トシコレハ課役ミナツトムルニ
十六歳ヨリ二十ニテヲハ中男トシコレハ四人ニテ正丁一人ニアタル
ナリサレト家役ガカリニテ夫役ナシ

黄蘗キ二百斤紙漆胡麻油椶椒油搗粟子煮塩ア年魚

雜 醋 飴 皮 海藻

己中男一人ノ調ナリ然レ郷土ニ役テ物産ノカハリアレハ國中コト
コトクコ、格ニモアルヘカラス黄蘗ハ播戸因幡ノ境ナル深山ナ
ラテハ生シカタシ他所ニマアルハ皮薄シテ用ルニ夕、紙ハ城
崎ノ二見蠶紙ヲ上トス養舎ノ諸紙民間日用物トナル
其外他郡山中ニモマ、コレヲ製衣ストイヘ氏兼惡ニシテ用ヒカタル
スヘテヲ国ノ紙ハ楮皮ニテ製ス山楮モ處々山中ニ生スレトモ

夕、他国ニウリテコニ用ヒス漆ハ所在ニコレラウニ胡麻油ハ夕、食
料トシ又髪ニ用ユ燈ニ點ハ多ノ菜油ナリ慢椒油コノ国ニ出ル
処ラシラス国中ノ油ハ菜油ヲ多シトス荏油ハ夕、工人コレヲ用
テ雨衣等ヲ製ス蓖麻子油ハ印色ノ具トス故ニコノ二品ス
夕ナレ胡麻ハ價ノ貴キニヨリテ燈ニ點スルモノマレナリ水ニハ
梶油アリ食料ニ用テ甚夕佳ニ罌子桐コ、ニハコ口木ト云
燈ニ用テ其光リヨシ然氏毒アルユヘニ人多クキラフ山茶ノ
油、髪ノ糲ヲ去ル多茂木油ハ其臭甚惡シ楡油モツトモ
燈ニ點スヘシ歎ニ熊油アリ薬用ニ入ル又髪ニスレハ光ヲ生
ス臭ニ津乃地ノ油多シ燈ニ點シテ甚ヨシ北国ニテツノヂノ油
ヲ用テ下西国ニテクジテノ油ヲ用ルカコトシト貝原先生モ記シ

ヲケリ搗粟子ハ七美山中尤多シトス煮塩ノ年魚ハ今ノ塩
藏アユノ類ナルヘシ處ニニコレアリトイヘ氏養又郡八木川ニ
出ルモノヲ名品トス俗ニ八木太郎ト称ス其大サ他ニ異ナリ項
起肉アルヲコノ川ノシルシトス雜腊ハ全ク乾物ヲイフト義
解ニ釋シヌレハ今ノ乾右魚ノ類ナルヘシ鯨ハフカサメノト
ナルニヤ今ハコノ国ニキコヘサル外ニ思ニ合スヘキモノナシ海
藻ハ通名ナレハ古代ニ貢獻セレハ何ナルモノニテカアリケン
モシ美含竹野ノ稚海藻ニアラスハ必ス城崎瀬戸ノ紫菜ナリ
民部式曰年料別貢雜物但馬国筆八十管紙麻七十斤馬革
十一張 其運送ノ僦夫ハ各路粮ヲ夕、マ
筆ヲコノ国ニテ作ル下今ハキコヘス古モ買テ獻セシナラン

紙麻ハ二字ニテカミノノナリタ、麻トハカリ云テモカミノノ
ナリ馬草ハ兵庫寮ニ進シテ甲ヲ修理スル料ニナスナリ
驛傳牧等ノ死馬ノ皮ヲ用ヒ熟テコレヲ送ル若クハサ
者買備テ數ニミツ其直ヒハ正統ヲアツト云リ

又曰諸国貢蘓番次 但馬国十一壺信各水升蘓ハ牛乳ナリ乳
一斗ヲ煎シテ蘓一升ヲウル其番ノ年十月以前ニ進了ル
又曰交易雜物 但馬国 絹七百廿七疋絲一千斤 鮫皮一百五十
斤 醬大豆廿六石三年ヲ隔テ進スル 醬大豆五石 右正統ヲ以テ
交易シテ進ス其運功ノ食並ニ年統ヲ用ユ

コレハ其土地ニアラサル物ハ其所ノ年貢ニテ買求テ献スナリ
絹ハ人ユトニ織出スモノニアラス 絹ハ處トシテアラサルナシ

然レ養父郡ヲ上トス 朝来郡コレニ次出石氣多ノ二郡ハ麩
ナリ其他ハ多ク出サススヘテ蠶ニ春夏之二品アリ 桑葉ヲ取
コトモ二度ナリ故ニ桑樹傷ミテ葉繁カラス 周礼ニ原蠶ヲ禁スト
テ夏蠶ヲカフコトヲイニメラレシハユノ為ナリニトニ春蠶ハ三月ニ
生スルユヘ餘塞ニイメミヤスク夏蠶ハ六月ニ成長スルユヘ暑氣ニシ
ルレモヤスシ且出石氣多ノコトキハ田地多キユヘ蚕ニ心ヲ用ユル
モラロソカナリタ、養父郡ノ山中ハ蚕ノ生スルコト遅シ故ニ春蚕
ノミカフテ夏蚕ナシ桑モ二度傷ミサルユヘ其葉繁リヤスシ
且田地スクナキユヘ心ヲ用ユルコト精シ故ニ國中ノ蚕絲ハ養父
郡ヨリヨキハナシ然レ百年以來ハ夕、綿ヲ献シテ絲ヲ收メス 鮫皮ハ
上ニ云フカサメナラン 醬大豆ハ味醬ニ依ル大豆ノ八郡モナアリ

宮内式曰諸国制貢御贄但馬搗栗子耳葛煎鮎年魚生鮭
穉海藻

耳葛煎ハ葛ヤ根ヲ制衣シタルヲ養又郡岩崎村ノ産ヨシ
鮎年魚ハ令義解ニ鮎モ亦鮎ナリトイハハ今ノ製スル処ト
同シカラシ鮎ハ過臘魚ナリ但馬列大河ノ海ニ入ル処ニアリト
香川ノ藥選ニモ見ユカハ國中ニ多カリシヲ享保年中ヨリタ
ヘテ生セズ寛保三年ヨリ又生セリ演鑑ナトハ年ノニスクナクナ
リ又天ノ物ヲ生スルコトハカルヘカラサルコト大膳式諸国貢進菓
子ニモ但馬ノ搗栗子耳葛前ニアリ

内膳式曰年料但馬国穉海藻四擔十六籠生鮭三擔十二隻
三度鮎年魚二缶山薑一斗五升三度右諸国貢スル所並ニ

前件ニ依リ仍テ贄殿ニ收メ供御ニ擬ス

山薑ハ本草新校正別集ニ焯菜ナリトアリ今ワサビト云七美
郡山中ニ多シ

典藥式曰但馬国セ一種黃遷十八斤二兩白芷三斤五兩前胡
杜仲細辛各一斤十兩獨活藍添滑石各五斤白朮
蒙朮各二斤十兩石斛十斤九兩升麻六斤十兩當歸
十斤梔子四斗薯蕷蜀椒柏子仁各一斗桃仁一斗桑
麥門冬八升牡荊子三升白殭蠶二兩

コレハ此国ヨリ典藥寮ニ收メレ藥品ナリ黃連ハ今モ山中
陰湿ノ地ニ生ス城崎ノ奈佐谷養舎ノ佐津谷最モ多シトス
白芷ハ今出ル処ヲシテス前明モ同シ杜仲ハユミト云古モ此

木ヲ用ヒヒヤ今ハマサキト譯セリ細辛ハ出石城邊ニ多シ妙見
山モ亦アマタアリ然レニ杜衡ナリ獨活ハ今ノ羌活ト云ウト
ノ嫩根ナリ老根ヲ獨活トスルハ延喜ノ時ニナキナリ和漢
氏ニ五百年未醫方一変セリ藍漆木書ヲ句スルモノ一種
トス然レ本草ニコノ藥ナレ必ニ物ナラニ藍ハ処ニニコラ種ニ
養父郡ノ八木谷モツトモ多シテ且佳コレタ、物ヲ染ルノ
醫家其實ヲ用テ諸毒ヲ解ス名テ藍實トス又ソレヲ水ニ浸シ
其滓ノ下ニアリテ澱モノヲ藍澱トシ上ニ浮フ沫ヲ取テ集メ陰
乾ニスルモノヲ青黛トス漆ハ乾キタルヲ乾漆ト云婦人ノ血暈ノ
藥ナリ又俗間小兒ノ穴處ニ點テ灸治ニ代ルモノアリ其毒ニ
中リテ死ヲ致スモノスノナカラス禁スヘレスヘテ物ヲ染ルコト藍

ヨリ多キハナシ其コレヲ作ルモノ出ラ殺スノ多キカ故ニ天竺ニ
テハ屠家藍漆家トテ穢多ト並ヘ稱ストイヘ氏中華ニテハ
藍ヲ艾トテ禮記ニモシルセリ漆ハ日用ノカクヘカラサルモノ也
コトニ人カラ費ヤサスレテ其利ヲ得ルニハ周禮モ漆材ノ稅ハ
二十ニノ五トイエリ本朝ノ令ニハ上晨夫ハ一戸コトニ桑三百
根漆一百根以上ヲ課セテ五年ニ種シム中下ノ戸モ各分ニ隨
ヘリコレ藥用ニ限ラサルヲナレト政事ノ一端ニハコニ附録ス
滑石今出ル處ヲ知ズ白朮國中ニナアリ氣多西ノ下谷ヲ
第トス養父郡八木谷ヲ次トス蒙木出石山中ニ多シ石斛
朝耒郡ヨリ養父郡大夫ノ山中ニ多シ升麻養含氣多ニ出
トイヘ氏鳥ノ足ナト云モノナリ今ハ水筆ト云モノヲ真トス當

帰ハ家園ニ種ユ 榧子ハ七美郡河原場村ヨリ出ルモノ其味
國中ニスクリ 薯蕷ハ七美郡ヨリ 妙見山ヲ第一トス出石
鳥籠尾山ニ生スルモノヲ次トス 蜀椒ハ養父郡朝倉村ニ
産スルモノ天下ノ名品ナリ 柏子仁ハ側柏ノミナリ所在ニア
リトイエ凡又多キ所ナシスヘテ柏ニ數種アリ一ツ側柏ハ子ノ
手カシハナリ奈良山ノコノテ柏ノ二面トニモカクニモ子シケ人カナト
詠セシハコノ柏ノ葉ハ側テルニハ両面ニ表トナルヲ小人ノ熊ニ
夕トタルナリ佛手柏ハ千手ト云テ柏中ノ上品ナリ又扁柏ハ
ト木ナリ圓柏ハイブキケリ 刺柏ハビヤクシニナリ檜柏ハス
ギビヤクシニナリ 卷柏ハ草ニハナリ石柏ハ岩ヒハナリイツ
レモコノ国ニ多シ 桃仁養父ノ大濱谷ニ多シ 麥門冬處々ニ

ユレアリ大葉ノモノヲ數蘭ト云 牡荊子在所ヲシラス
白殭蠶カヒ蚕多キ中ハ夕ト、アリ多クウヘカラス

兵部式曰諸國、健兒 但馬国五十人

コニハ諸國ヨリ京都ヘトル大番ノタクヒト見ニ令ノ中ニハイマダ
載ラレス太平記大全曰頼朝ノ代ヨリ王番役ニ準テ西國
ヨリ京中ノ辻ニ四十八箇所ニ篝ヲタク一篝ノ役人數五
百人也但馬二百人ト元弘ノ比ニテモ專ラアリシヲナリ
又曰諸国器仗 但馬国甲三領横刀八口弓二十張征箭二十具
胡篋二十具 右毎年造ル所ノ具前件ニ依リ其様仗ハ色
別ニ一箇朝集使ニ附テコレヲ進ス
器仗ハ兵具ナリコレヲ征伐ニ用ユラ兵器トイヒコレヲ礼

容ニ用ルテ儀仗ト云ト今義解見工諸國ニ軍團ト云モノアリテ
コレヲ藏ラレシナリ續日本後紀ニ養父氣多ノ兵庫ノ鼓自ラ
鳴レテアリテクナリ上古ハ郡コトニ軍團ヲ置レシカハ兵庫モ
ソレニナリシナリ用ノ字ヲカブトヨムト近キ代ヨリ謬リナリ
横刀ハ與古波伎トヨムヨシ搗囊抄ニミエタレト日本紀舊事紀
ナトニモタ、太知トヨメリ弓ニ造ルオ古ハサマクアリ檀弓ヲ
但馬國ニトラレシトハ三代實錄ニアレト今ハコノ國ニ檀アルトヲ
キカス民間ニテ別ニエミト云一種アリ古代弓ニ造リシモノ
木ナリシカ軍器考ニモシレサルヨシ記セリ征矢ハ征伐ノ時ニ
用ルニ名ツケシカハ今トサノミカハルヘカラス胡箒ハ古ヘモラ
トヨミシラ中古ヨリヤナクヒトシテ別ニ箒ヲエヒラトヨシヨシ記

セルモノアリ古ノ甲ハ革ニテ製リ後ノ甲ハ鉄ニテ造ルヲ見ハ
スヘテ古ノ武器ノ製法今ト大ニ異ナリ

主稅式曰祿物價法但馬備中兩國絹一疋真稻廿九束絲一約
八束鐵一延五束

今義解曰絹八十六兩ヲ約ト云

又曰諸國雜物ヲ運漕スル功賃但馬國駄別ニ二十四束

右運送ノ功賃並ニ前件ニヨル其路粮ハ各程ニ準シテ給フナリ

ノ人日ニ米二升鹽二勺下リノ人半ヲ減ス

凡一駄荷率 絹七十疋 絶四十疋 絲三百約 綿三百疋

調布三十端 庸布三十端 高布五十段 銅一百斤

鐵廿疋 鐵七十口

こ但馬ヨリ京都へ運フ荷率ナリ 絹ノ廉ヲ絶ト云
絲ハ六兩ヲ約トシ 綿ハ二斤ヲ化トスルナリ 布ハ五丈ニ尺
ヲ端ト云銅一斤ハ十六兩ナリ

驛傳

兵部式曰但馬国驛馬粟鹿郡 養老各八疋 山前五疋
而治 射添各八疋 春野五疋

令曰凡諸道ニ驛ヲ置ヘキ者三十里コトニ驛ヲ置キ地勢
阻險及水草ナキ處ハ使ニ隨テ安置ス里數ヲ限ラス今按ニ
粟鹿ハ朝来ノ郷ナリ郡ノ字ツケシハ傳寫ノ誤リニミナ郷ノ
名ノ出シヌハ養老ハ養父郡ノ養耆郷ニシテ山前ハ氣
多郡ノ樂前ヲアヤムト見ユ面治ハ神名帳ニアレモ二方郡并

土村ノ神社ニシテ郷ニアラス不審射添ハ七美郡ノ郷ナリ春野ハ
美含郡ノ竹野郷ナルヤ出石郡ハカリ置レサルハ當時東丹波
ノ往来ナカリシニハナラン

傳馬 朝来 養父 二方 七美 郡コトニ各五疋

主稅式曰驛馬直法 但馬 上馬三百束 中馬二百五十束 下馬
二百束 其傳馬ノ直ヒハ各遊ヒニ廿束ヲ減ス

又曰驛馬死損 但馬等十分ニ損二分ヲ許ス
令曰馬闕矢アラハ即驛ノ糶ヲ以市替ヨ

物産

上古ハ其郷土ノ生スルモノヲ以テ貢上セシニ貢物ノ外別ニ産物ナシ
後世貢職ニヲユタリシヨリ産物ヒトリアラハ順徳院ノ八雲抄ニ

十府ノスカユモナフニアミタナリ陸奥ナラテモ但馬ナルトモイ
ト玉リ藤原明衡新猿樂記ニシメテ但馬ノ紙ソイタシヌルヲ
玄惠ノ庭訓ニイカテ漏シヌルヤ近年江戸往來ニ朝倉山椒有
以來諸書ニアラハルモノ具サニアケカタル

凡土記曰産 諸草木良材異州 獨活 山藥 蜀椒

麥門冬 葛根 藤 李 桐 松 柏 桑 柳 禽獸ニハ

熊 猿 鷹 鴨 雁 鶴 魚 甲 佐氣 湏 枳 年魚

麻 湏 鱈 鰯 鱒 津 乃 地 蛤 蛇 麻 天 貝 等 煎

緋ノ帛 蠶 絲 紙 麻 苧 炭 已下脫落
ニ丁計

獨活 國中處ニコレアリ 養父郡大屋谷モツトモ多シナ
自然生ナリコレヲ食料ニ用ルモ京都園生ノモノニ比レハ香

氣甚多シ奈クハ上ニ見ス 山藥ハ上ニ出 薯蕷ナリ唐ノ
代宗ノ諱ヲ預ト云ニ因テ改テ薯蕷トス又宗ノ英宗ノ諱ヲ署
ト云テ避テ山藥トセシヨシ本草綱目ニ見ユ 茗ハ字彙ニ茶ノ
晚ク取モノトイヘト畢竟通名ニ此國ノ産甚佳ニ夕、京都
ニテ其名ノアラハレサルハ水ニヨルナラン 藤ハ諸郡山中ニ多
大ナルモノハ一圍ニアメリ然レ夕、其皮ヲ繩トシ其嫩葉ヲ
貧民ノ糧トスルノミコレヲ以布トスルハ甚マレナリ 李
二種アリ實赤キモノハ太ニシテ黄ナルモノハ小ニシテ文選ニ朱
李子ヲ寒水ニ沈ハトカキタレハ彼方ニテモ朱ヲ賞スレ見
タリサレト味ハ黄ナル方ニサレリ桃李ノ二花ハ中華ニテノ
壯觀トスルナラユノ方ニテハ愛スル人ナシ草木モ遇テ不遇

アルカ 桐ハ諸郡ニ種ルモノ多シト白桐ナリ梧桐ハナリ
松多トイヘ氏妙見山ニシクハナシ俗ニ千本松トイヘト其限リニハ
アラシ七尾七谷麻ヲ種ルカトシ妙ニ見ル山面白キ松ノ雪
ト宗祇ノイヒシ勝境ニハトエノ山ハ杉盛ナル丁山陰道ニ
甲タリ故ニサシモノ松モ花ノ旁ノ深山木ノコトシ桑モ二種有
圓葉ノモノハ上品ナリ花葉ノモノハ葉繁カラス甚ハ却テ
多シ柳數種アリ水揚ハ他國ト異ナルトナシ無楊ニ至テハ
絲ヲ蠶クニ一丈ニアメリコノ種養父氣多同ニ多シ京
都ニテハ六角堀河コトニ名高キハ正親町殿ノ別館ノ柳
ナリコレハ下手
天覽ヲ経タリトイヘ氏エノ方ノモノニ似ルヘクモアラス又一種

行ユリ李柳ト云モノアリ一根數莖ヲ生シ亭トトシテ枝ナシ恰モ
蒼草アサギ叢生ルカトシ高キモノハ七八尺ニスギ短モノハ二三
尺土人刈テ水ニ侵シ皮ヲ剥テコレヲ編ア大小ノ器ニツクル名ヲ
柳行李ト云又其莖ヲ切テ箸ノコトクシ秋後下湿地ニ挿セ
ハ明春又芽ヲ長シ三年ニシテ器ナル淡々老人カ此國ニ来リシ
時刈中ニ柳早乙女サヲトメウヘワタリト云シハコノトナリ城崎辺ニ
テハコノ器ヲ業トスルモノ多シ 熊ハ養父七義ニ方ノ
深山ニアリ然氏コレヲトルトメナリ 猿ハイツクニモ多シ
ミナナ獼猴ヒツナリ猿マ猴ハタヘテ生セス 鷹ノ類多シトイ
ヘ氏美含郡餘戸アニ産スル隼イササコソ名ニ高キ逸物ナレ
民間ニテタマミ挿ヘウル鷄イシカノタクヒ往々コレアリトイヘ氏

此國ニ菓ノアルヲ見ス鷲ハタマニアレ氏鵬ハタエテキコエス
鴨ハ數種アリツ子ニタツトフハ緑頭ナリコレヨ真鳥ト云カ
鳧アイサ黒鳥ノルイミナ多シ鴈モ鳥ノ一種ナリ処ニ
コアリトイヘ氏此多クヒコトクノ奉カタシ雁ハ出石城崎ヲ多
シトス其他ハサノミキコヘス鶴モタマニアレ氏子ヲ生スルナ
ケレハ此國ノ産物ニセシハイトコ、ロエス 須々、枳ハ鱸ナリ
城崎ノ大河ノ海ニ入処ニ多シ 鱒ハ河海ノ間ニ生ストイエトモ
潮ノ至レ限リニハスミス冷水ニ從テ山間ニ遡ル故ニ氣多川ハ
冬至ヲ過レハコレヲトル養父ノ山中ノコトキハ夏ニ及ヒ大
屋ノ天瀧ニ至テ極ニ其味次第ニ薄シ 鱒ハ北海ノ名品ニ
コ國ノ海物ハコレト比目魚モツトモ多ク日ヨシ 鱒ハ北海

トイエ氏何ツ丹後ニ及シ鱧ハ古代ヲト訓スコノ國ノツノシノ種
類ニ若ハモトイハ、コ海ニレナリ 鱒モト下品ノモノナリ
津乃地フカノ一種ナリ此國今ニ多シ國字ノツノ字ニ似タルユヘ
澤菴ノ名ツケラレシトイヒ傳トナラフルキト見ユ西國ニツノ
ト云モノアリコレト同物ナルヘシト貝原ハイエリ 蛤蛇多シ唯
蛇ハ其肉甚堅クシテ味ヨシスヘテ北海ノ魚物南海ニ比フレハ
種類スクナクシテ其味ハ大ニサル 麻天貝イツルコトナリ
絹ノ薄ヲ帛ト云 苧ハ多クウヘス 炭ハ養父ノ糸井ヲ
ヨシトス建屋コレニツグ

- 國華萬葉記曰名物 小人參 芍藥 黃連 白朮 半夏
茜 于蔴 同繩 帚 綿 緒 苧 苧 柳籠裏 温石銀

鷹車牛 朝倉山椒 出石絹 諸磯砥

小人參ハ七美山中ニ多ク生スルハタ、其鬚ヲ用ユ故ニヒケ
人參ト云ヘテハ直根ノモノアリ朝鮮ノ産ニ彷彿ナリ其中丸キ
モノヲ雀様ト称ス養父大屋谷ニモレニアリ又ト、ケ人參
アリコレ沙參ナリ但馬ニテ桔梗^{キキヤク}モトキトイフヨシ松岡ノ用藥
須知^{スチ}ニシルサレシカトコノ國ニテキユヘサルナリ芍藥山生ノ
モノ多ク養父大屋谷モツトモヨシ半夏出石郡ヨリ出ルモノ好
苗^{アサ}養父大屋山中ニ多ク史記ニテ畝ノ苗ヲモテルハ其富ナカ
候ト等シトイヒシカト今ハ田地ニ種ルモノナシコレヲ漆ルコト出石
城ノ筒井氏世々其法ヲ傳フ 蕨ハ諸郡山中多クトイヘトモ
鈎蕨ノコトキハ養父大屋谷氣多ク西ノ下谷或七美山中

ヨリイツ 蕨^{ハキ}數種アリタ、梭^{シロ}招ヲ以テ製シタルモノ日用ノ
具ナリ其餘ハ舉テ數フベカラス 綿ハ古ク、蚕綿ノミ百年
以來綿花^{キタ}世々盛ナルエ國中アマ子コレヲウエ然ニ養
父ノ輕部郷ヨリ氣多ク高生郷^{メカフ}モツトモ多ク山中ト海
濱ハ其宜キニアラス 温石ハ養父ノ八木谷ニ多ク就中尾
崎村ヨリ中瀬村ニテニ出ルモノ甚ヨシ其色青白ヲカ子潤
臧玉ノ如シト山東通志ニイエルニヨク合又 銀ノ出ル處朝
来郡生野モツトモ久シク且多ク養父^{アサ}明延氣多ク西ノ下今
ハクナシ其外出石山ノ中ノコトキハ諸郡ニミアリトイヒ
利トスルニタラス 車牛ハ今ニ多ク且ヨシ團中ミナアリト
イヘ氏東北ノ方ニ成長スルモノハ其性アラク西南ニツタツ

モノハ其体ヤハラカナリコレ山川風氣シカラシムルユエンナリ
諸磯砥今ハマレナリ國中モツハラ用ル処ハ美含郡桑本村
ヨリ出青砥ナリ其山ノ名ニ因テ水山トヨフ其他諸山ヨリ
出トイヘ氏甚アラシ

大和本草曰但馬ニアル大章魚ハ甚大ナリ或ハ牛馬ヲトリ又ハ夜
泊ノ小舟ニ手ヲノヘテ人ノ有無ヲサクルト云

章魚マエトニ大ニシテ肉強ク、鱻魚イ、名ナシ其魚物ノ南海ト
異ナルノミナラス草木鳥獸トイヘ氏一夕シカリ細カニコレ
ヲ別テハ八郡ノ中モ亦各宜トヨロシカラサルアリ然レ古
書ニノセサル物ハ畧之



